

平成27年6月定例会

市民環境常任委員会会議録

招 集 月 日	平成27年6月15日(月)
会 議 場 所	市役所 5階 理事者控室
開 会 日 時	平成27年6月15日(月) 午前 9時04分
散 会 日 時	平成27年6月15日(月) 午前11時40分
委 員 長	橋本 稔
委員会出席 委 員	
委 員 長	橋本 稔
副 委 員 長	加藤 英樹
委 員	菅野 博子 羽鳥 健 大塚 佳之 金子 雄一
委員会欠席 委 員	なし
委員外議員	なし
傍 聴 者	なし

議 題

議案番号	件 名	審査結果
第60号	平成27年度鴻巣市一般会計補正予算（第1号）のうち本委員会に付託された部分	原案可決

委員会執行部出席者

（市民協働部）

市民部長 水村 光行
 市民部副部長 大塚 伸也
 市民課長 田口千恵子

市民税課長 関根 和俊
 資産税課長 佐藤 康夫
 資産税課副参事 福島 栄
 収税対策室対策室長 早川 宏人
 やさしさ支援課長 岡安 則行

吹上支所副支所長 杉山 彰男
 川里支所副支所長 馬橋 陽一

（環境経済部）

環境経済部長 長島 祥一
 環境経済部副部長 竹村 慎吾
 環境経済部副部長兼産業振興課長
 新井 昭

環境課長 島田 和夫
 農業委員会事務局長 新井巳代子
 環境課副参事 関口 泰清
 観光戦略課長 大沢 昌弘

書 記 岡 崎 夏 子
 篠 原 亮

(開会 午前9時04分)

(委員長) ただいまから市民環境常任委員会を開会いたします。
委員会記録の署名委員を指名いたします。
菅野博子委員と羽鳥健委員をお願いいたします。
これより本委員会に付託されました案件の審査を行います。
本委員会に付託されました案件は、議案第60号 平成27年度鴻巣市一般会計補正予算(第1号)のうち本委員会に付託された部分の議案1件であります。

これを直ちに議題といたします。
それでは、審査の方法についてお諮りいたします。議案第60号について執行部からの説明の後、休憩して現地視察をいたします。その後再開して、質疑、討論、採決といたします。この方法で異議ありませんか。

(異議なし)

(委員長) 異議なしと認め、決定いたします。
初めに、議案第60号 平成27年度鴻巣市一般会計補正予算(第1号)のうち本委員会に付託された部分について、執行部の説明を求めます。

(説明省略)

(委員長) 以上で説明が終わりました。
これより現地視察のため、暫時休憩いたします。

(休憩 午前9時07分)



(開議 午前10時38分)

(委員長) 休憩前に引き続き会議を開きます。
これより議案第60号について質疑を求めます。質疑はありませんか。
(大塚) それでは、今回は県の補助金の部分がどこに使われるかということ、大きく分けて2カ所ですね。順番にお伺いしますが、まず1点目であります。
先ほど現地視察をしました市町村による提案実施事業についてです。これについては、幾らかちょっと調べてはみたのですが、大きなくくりするとふるさと創造資金の制度の部分、制度名としては市町村総合助成

制度というのがあると思うのですけれども、そこに含まれる補助金を活用するという内容だと思います。全体には、県全体27年度15億円という総予算が計上されていて、その中で今回の提案、鴻巣市においては魅力ある地域づくり事業ということで提案をし、採択をされたと理解をしております。

改めて伺いたい内容ではありますが、具体的には県の企画財政課が大きな窓口、また地域としては上尾にあります県央地域振興センターが窓口でやりとりをされていると思いますが、まず1点目ではありますが、魅力ある地域づくりといってもなかなかぴんとこないのですが、具体的に今回提案した内容の中で特色、鴻巣のオリジナルといいますかね、その特徴、特色があればどんな内容なのかお伺いいたします。

（観光戦略課長）ただいまのご質問でございますが、まず事業の目的とも絡んでくる内容でございますので、そちらほうからお答えしたいと思っております。

鴻巣市といいますと、これ3月の議会のときにもちょっとお話ししたのですけれども、鴻巣宿の始まりはもともと鴻巣御殿のほうが最初にあつて、御殿があつたがために今の北本にあつた鴻巣宿を今のところに移転したというような経緯がございます。ですから、そういったことも踏まえまして、鴻巣御殿と鴻巣宿のつながりを今回のイベントで再認識することによって、郷土に対する理解と愛情の醸成を図っていくことを目的として考えております。

以上でございます。

（大塚）当然提案をした段階で受ける側、いわゆる県もしくは出先機関のほうになると思いますが、それを認定といいますか、認めるに当たり、この点については高く評価できるとか、具体的な中身についてもしお答えできる部分があれば伺いたいと思いますが、何かあれば。どうでしょうか。

（観光戦略課長）これ裏話に近い話になるかもしれませんが、実際今回のイベントにつきましては2年前に行いました鷹狩り行列と内容的には似たような事業ということになります、実際のところは。ただ、

今回の採択に当たっては、この委員会の付託事項ではないのですが、実は生涯学習課のほうで文化財マップを今回作成するというので、そちらのほうの補助事業と一応セットで今回申請を上げていまして、行列部分につきましては実際立体的な3D行事ということで位置づけて、文化財マップにつきましては紙ベースなので2Dということで、一応それを要するに歴史のセットということで位置づけて今回採択になったというふうな経緯はございます。

以上です。

(大塚) 今答えの中で、2年前ですかね、將軍鷹狩り行列も類似する事業ですという答えがあったのですが、ここ数年間の中でも時々市町村による提案事業というのが目にする機会があるのですけれども、鷹狩り行列以外ここ数年間の実績としてはどんなものがあるのか。これ毎年やっているような気もするのですが、過去にはその1点だけなのか。今回2回目という理解でいいか。そこら辺はいかがでしょうか。

(観光戦略課長) 観光の事業としては、今回が2回目となります。

(大塚) それと、これについては恐らくまだ交付対象ということで、いわゆる内定という状態だと思います。いわゆるもう既にお金が来ているということではないのではないかなと思うのですが、恐らくこれについては事業が終わって報告書らしきものを提出をして、その内容を精査して、結果としては交付になるのだと思いますけれども、これについてその報告のボリュームというのですかね、どんな形でどんなものを報告として上げるのか、それについては今の段階でおわかりでしたら伺います。

(観光戦略課長) 今の内容ですけれども、確かにこれ事業終了後に精算をして報告を上げた上で最終的に確定するという内容になっております。報告としましては、成果指標調書を一応出してありまして、それがどの程度達成されていたのかということを書いて報告ということになります。先ほど来お話出ていますけれども、この事業は事業としてもう採択をされていますので、金額的には1,200万円の半額の600万円ということになっております。ですから、実際のところは市の予算が1,200万円で、あと協賛金等を入れて少なくとも大体1,300万規模で考え

ておりますので、この600万円については一応クリアできるものというふうに考えております。

以上です。

（大塚）最後に1点だけ。この部分については。

一昨年開催をした鷹狩り行列、まだ記憶に新しいのですが、あいにくの天候で思っていたものが消化できなかったという、どっちかというところ消化不良的な結果に終わっている部分があると思います。今回天候については、これはもうお任せするしかないのでは運任せになると思いますが、そういったことも含めて前回同様の事業をやったと、それを前とした場合、今回それらについても含めて何か配慮すべきこと等が今の段階であれば伺いますが、いかがでしょうか。

（観光戦略課長）今回前回の反省を踏まえまして、一応予備日を設けてあります。14日がもし悪天候の場合につきましては15日に実施します。ただ、この場合ちょっと交通規制が2日間というのはちょっと難しいので、行列イベントはなくなります。鴻巣東小学校本陣会場において本陣イベントのみ行うということで一応事業計画のほうは考えております。以上です。

（大塚）それでは、当日の内容等についてはほかに質疑があるかもしれませんが、私はこれでとどめておきます。

続きまして、2項目めでありますが、この事業、済みません、同じく県の補助でありますけれども、大きなくくりでいくと国の林野庁が所管する事業で、ちょっと調べましたら27年度予算も1億6,258万程度ということで、全体的には大きな金額になっているなというのわかりました。埼玉県としては、それを受けて県の農林部、森づくり課もしくはそれと調整しながら、寄居の農林事務所のかかわる部分の県の補助事業だと理解をしております。

これについて1点まず最初に伺いたいのは、これやること自体はもう3月の定例会の中で可決をしておりますから、やることについて云々ではなくて、今回この建築についてはおおむね年度内を目指すわけですね。建築をするということをいわゆる県のほうに採択のために計画書なり出

しますね。その計画書の中で、いわゆるどんな目的でこれをやるのかという目的を含め、一部にこんなことちょっとあったので、その点を伺います。何かというと、当然事業を実施するに当たってはその後の何年かの計画というのを恐らく示さなくてはいけないのかなと思います。具体的には、建築後3年間程度恐らく、どんな利用を見込んでいるのか、具体的に人数なのか、それ以外なのかわかりませんが、当初出した3年間の利用見込み状況について恐らくシミュレーションがされていると思いますが、その中身についてはどうなっているのか伺います。

（観光戦略課長）今回の補助事業を申請するに当たって、確かに今3年間一応利用実績見込みが義務づけられております。その中で、一応今回184平米の建物を増築します。それにかかわって、3年間で、3年後には約2万1,300人程度の利用人数の増加を一応計画として見込んでおります。

以上です。

（大塚）先ほど現地の説明の中に、花久の里自体はいわゆる合併前後といいますかね、そのタイミングで当時まちづくり交付金事業の対象地域で、いわゆるその当時も流動人口を3倍目標とかというのが多分立てられて今に至っていると理解をしております。先ほどの現地の説明の中で、26年度だけでも8万人を超える利用者、来場者があったということがあります。これ今2万1,300人というのは、花久の里というくくりの中の総数に含まれて、今回建築しようとする特定の部分について人数として2万1,300人という理解でよろしいのでしょうか。

（観光戦略課長）今回拡張事業を行う上で、増設したがゆえにこれだけふえますよということで、先ほど現地でご説明しました約8万9,000人26年度ありまして、それよりも2万1,300人3年後にはふえているということでございます。

（大塚）余計な心配かもしれませんが、あくまでも利用見込み人数になりますから、見込みを下回った場合ということもあり得ない話ではないと思うのですが、そういった場合、今回事業計画を進めて建築して完成しているわけですけれども、ペナルティーというか、何かマイナスの要

因、思ったより人が来なかったという場合は発生するのでしょうか。

（観光戦略課長）特にペナルティーということは今伺っておりませんが、ただ今回の拡張事業につきましては、建築部分のほかに造園部分でバラを中心とした庭園、ローズガーデンを大幅に増設しますところや、あと体験工房、それと地場産センター等を設置するというところで、大分集客人数も見込めるというふうに考えておりますので、まずは見込みを下回るといことは今のところ考えておりません。

以上でございます。

（大塚）最後に1点だけ。

恐らくどこの地域でもそうなのですが、新しいいわゆる観光スポットだとか施設ができると近隣の生活環境が変わる。例えば車の出入りあるいはそこで生活する人たち、それらについて当然配慮もしなくてははいけないと思います。それについては、事前の調査なり、聞き取りなり、地域住民の皆さんの現状ですとか、要望とか意向等については調査をされているという理解でよろしいでしょうか。

（観光戦略課長）具体的に調査は行っておりませんが、実際今回5月の花まつりのときかなり花久の里にお客様が来ていただきまして、駐車場が満杯で入り切れないというようなこともございました。こういうことを踏まえますと、今後そういった集客、特にバラまつりですとか、こういう秋に向かっての行事ありますけれども、そういうときによりこれから集客が見込まれますので、そういったことで今後配慮していく必要はあるというふうに考えます。

以上です。

（大塚）そうなりますと、1つの課、1つの部だけの問題ではなくて全庁的な対応が当然必要になると思いますので、その辺については今後何らかの形で、いわゆる議論としてテーブルに上げるという理解でいいかどうか。確認ということで部長に伺いますが、そういったことでよろしいでしょうか。

（環境経済部長）地域とのそういった意見交換の場はいろんな場面であるかと思いますが、昨年からは始まりました地域懇談会、課長級に

よる自治会長さんなり、地域のまとめ役の方との交換とかの場があると思います。そういった中で、地域の現状とか課題としたものをやっぱり地域で話し合うという、そういった場面というのですか、機会を捉えながら地域の要望を吸い上げなり、また一緒に考えていくと、そういった自治というものは築いていけるかなと、そう思います。

(大塚) 以上です。

(菅野) 初めてですので聞きますけれども、この中山道の鴻巣御殿の行列ですけれども、これって10周年だからやるのか、毎年やるのか。去年は鷹狩り。

(おととしの声あり)

(菅野) おととし。ことしは鴻巣御殿。そうすると、そのときまたタイトルが変わるのかね、ちょっとそこら辺を聞きたい。

(観光戦略課長) 今の委員ご指摘のように、今回合併10周年ということの記念行事として御殿の行列を行うということでございます。

(菅野) そうすると、2年後やるとか、そういうのは、そのときそのときの実行委員会なり……これどこで決めるのだ。観光戦略課主流で決めていくのか、市民の実行委員会団体に決めていくのか。どこが決める組織になるのでしょうか。

(観光戦略課長) この事業そのものは市が主体的に決めておりますけれども、今回先ほど申し上げましたように合併10周年ということの事業でございますので、今後につきまして今のところ計画はございません。

以上です。

(菅野) この鴻巣御殿、御参行列というのは今回だけの事業であると。では、2年前の鷹狩りは、中山道何だかというのだからやったわけですね。では、1回限りということもあるということ。

それと、協賛金を取りますけれども、協賛金というのはどれぐらい集める予定でいるのでしょうか。協賛金が集まれば、市が出す分は減るわけですかね。

(観光戦略課長) 実行委員会の予算では、一応協賛金を今100万円程度見込んでいるところでございます。それによって市の持ち出しが減るか

いうと、そういうことではありませんので。市は、あくまでも1,200万円実行委員会に負担金として組んでいるという状況です。

それから、先ほどありました前回の行列につきましては、中山道宿場会議開催ということに合わせたものでございますので、やはりそういった記念行事ということの位置づけになりますので、今回と同様ということ

以上です。

（菅野）1回きりの単発行事かもしれないのだ。そうすると、中山道の商店街が潤うとか、そういうのよりも、これお店出せるわけですから、いわゆるお祭りでわあっと盛り上げると、そういうことが重点……どういふふうになるのでしょうか。本当は中山道の商店街がそのことによって常時活性化していくといふふうにつながればお金を出す値が高まる気がするのですが、そこら辺はどうなのでしょうね。地場産業の振興。

（観光戦略課長）こういった大きなイベントによって間接的には、市内外からお客様もふえますので、それによって商店等が潤うことも考えられるかとは思いますが。

以上です。

（菅野）ただお祭りやっただってそんなに潤わないと思うのです。花火やっただってコンビニとそこのお店がちょこっと食べ物売れるぐらいでね。そんな気もするし、かなりの金出すことに対してそれだけの文化的な見返りなり、にぎわいが引き続き継続するような、地域の事業に大きな影響を与えるという、そういうお祭りになるのでしょうかね。線香花火のようなそのときだけばあっとやって終わりというのなら、かなりのお金出しますよね。そこは実行委員会でどういふふう論議されているのでしょうかね。

（観光戦略課長）先ほども申し上げましたが、今回の事業の目的としましては、やはり鴻巣市のそういう歴史的な特性を重視して、要するに鴻巣御殿があつて鴻巣宿が始まったというところと徳川家ゆかりの土地ということの認識、それを合わせて歴史を新たに認識することによって郷

土に対する理解と愛情の醸成につなげていければということで考えております。

以上です。

（菅野）何か秋まつりの小型版のような気が。秋まつり、おおとりまつりのね。そんなのではなかなかいかがかなという気もするわけですが。私は、本当は毎年やっていけるようなお祭りの中にイベントとして盛り込めるというのができないかなと思うわけです。車の中でも言ったのですけれども、鷺宮の商工会がわずか2人の青年ぐらいが回してアニメの「らきすた」ので何かいろいろやっているではないですか。大変な人を集めて、地元の商工会と本当に一緒になって商店が潤うという感じになっているのです。1回限りのイベントでは、そういうふうにはいかないうちに大変な思いして終わってしまっただけでそれっきりと。中山道も同じですよ。そういう気がするのですが、このことで商店街が活性化するという、そういう方向にこういうふうによれば持つていけそうだという部分はあるのですかね。

（観光戦略課長）今回の行列につきましては、まず時間的に11時から、時間的にもちょっと短い時間帯で行いますので、まず中山道沿いに露天商等が出店するということはありません。できませんので。それで、東小学校の校庭に各種団体による模擬店を設置して、それで盛り上げていくようなことは一応計画してございます。

（菅野）わかりました。私は北海道生まれですから、歴史がどうたらこうたらって余り知りませんが、若い市民は歴史がどうたらよりもっとアニメがどうのという、そういうほうがどうも人を集めて地域の活性化になる気がする部分もあるのです。あっちの観光会館にもこれにちなんだ、お金かけてすごい飾り物いっぱいありますよね。鴻巣御殿のをいっぱいつくっていますよね。観光会館に飾ってありますよね、びょうぶにしる何にしる。あれ見るにつけ、こんなにかけてこんなところへ飾って本当にどう市民に、市民自体も知らないのではないかと。あれつくるとき言いました、さんざん。あんな吉見屋さんを、お金出すようなことをやってどうするのだと。本当に観光するのなら、駅前あの今の

市民活動センターやっているあそこら辺を使うのではないか。それで、駅前、それからエルミのどこかを使うとか、観光戦略課を置くのならエルミの範囲に、1街区か2街区かわかりませんが、そのほうがよっぽど観光というのなら市民にしろよそこから来た人にしろ宣伝効果があるのではないかと思ったですよ。それで、最初エルミのホールなんかあいていたのではないですか。ホールは。それで、いろんなことができましたよね。雛祭りの飾ったり、いろいろやっていた、イベントも。でも、今はエルミがお金、収入料を得るために正規のお店が出てしまいましたよね。いろんな小物を売るお店がどおんと出てしまってイベントも何もできない。エルミのお店の中のホールですよ、入ってすぐのところ。ですから、本当は金かけて何かやるというのなら、この家康にちなんだどうのとお金かけてつくったのなら駅前の場所を抜きに考えられないと思うのですけれども、今回それにちなんだ行事がされるわけですが、その点はどういうふうに考えているのでしょうか。

(観光戦略課長) 産業観光館ひなの里につきましては、あの設置された地域が人形産業の拠点ということもありまして、そちらに要するに人を呼ぶためということも多分当初の目的だったかと思えます。ですから、駅前でなくてあえてそちらにつくって、ひな人形の産業の伝統をそこで見ていただくというような視点もあったかというふうに思います。以上です。

(菅野) いずれにしても、駅からあんな1.2キロも離れたところに観光会館をつくって、ひな人形って数点しかないしね。それに最初と約束が違うのは、中山道の活性化って言ったのに……

(委員長の声あり)

(委員長) 菅野委員、今の議案とちょっと離れていますので、議案のほうに戻っていただきたいのですけれども。

(菅野) 鴻巣御殿のあれ飾ってあるのですよね。だから、それと……

(ちょっと待って。商店街の活性化のための事業じゃないんですから、根本的に。だからの声あり)

(委員長) 議案のほうに戻っていただきたいと思えます。

(菅野) では、いいです。商工課でやるのに商店街の活性化じゃない事業やるかよと思うのですけれどもね。では、次はいいです。

花久の里の件で聞きますけれども、私数年間にわたって花久の里のいわゆる拡張整備工事にかかわるお金というのをずっと出したのです。出して、いつかのとき本会議場で言いましたけれども、物すごくお金がかかっているのです。つくるときに私たちが聞いたのは、青木正久氏の屋敷を改修して花と音楽のそれなりのものをつくるのだよということだったのでどんどん広げていって、どうも聞くと今回広げたので最後だと。もともとこれだけ広げるのが予定だったということだったのかね。そうすると、この間幾らぐらい当初からその予算、市の税がかかっているかというのわかりますかね。

(観光戦略課長) 以前の数字がちょっと手元にないのですが、一応今回の整備にかかわる事業、平成24年度から始まっていますけれども、それにつきましては24年度から26年度までで2,738万1,746円が一応確定した数字となっております。

(菅野) 27年度の予算で、拡張工事に1億2,692万4,000円組んでいますよね。去年は7,530万だったのです。毎年私決算でやると、すごい額使っているのです。今の面積でもう完結するのですね。これ以上もう建物をつくったり、ふやさないということでしたけれども、できて以来どれぐらいお金かかったかというの出ませんか。私、決算でも場所わからなかったな。毎年すごい金使っているのです。決算で。ことしだって1億二千……

(委員長) では、暫時休憩します。

(休憩 午前11時06分)



(開議 午前11時08分)

(委員長) では、休憩前に引き続き会議を開きます。

(菅野) 最終的にあそこに何万人って来ているから投下した値があるって言いますけれども、ではそれが本当に鴻巣の文化の発展と鴻巣のいわゆる産業の発展、それに寄与しているのでしょうか。どこからそれだけ

の人が来る。確かにうどん食べに行ったり、花をちょこっと買いに行った人もみんな人数にカウントしているわけですから、みんながあの音楽聞きに行ったり、文化に触れに行ったりしているわけでもないと思いますけれども、あそこのある意味というのをどういうふうに捉えているのでしょうか。人数が多ければいいと。何でもいい。

（観光戦略課長）もともとあの施設につきましては、地元の交流ということ念頭に置いた施設から始まっていると思います。実際花と音楽による交流事業ですよ。私も昨年も何度かコンサートに足を運んでいますけれども、音楽イベントに関してはかなりのお客様が毎回いらっしゃっております。本当にホールがいっぱいになるくらいお客さんがおりますし、固定客といいますか、あそこで行われるコンサートを楽しみにしている方が最近たくさんいらっしゃるというのはいまもう身をもって感じたところです。

あと、地元で、どうやって貢献しているかというところで申し上げますと、例えばあそこで出しているうどんにしてもあるいはついておりますいろんなてんぷら等の副素材にしても、基本的には地元のものを使ってお出ししているということで話は聞いております。地産地消を念頭に置いた食の提供ということで事業展開をしていることなので、そういった意味では地元で貢献をしているというふうに考えております。

以上でございます。

（菅野）例えば文化だと、クレアを文化センターでつくっていますよね。ここにも多大な資金を出して運営費を出していますけれども、なかなか会場がいっぱいにならない報告が出ますけれどもね。あのホールがいっぱいになるのはほんのわずかでしかないわけです。小ホールなども、とにかく事業はいろいろあっても採算が本当に合っているのかと思うような人数が非常に多いわけですが、あそこは人数が少ないからね、会場がね。それで、年がら年中ここみたくやっているわけではないから、それはリピーターがいればそれは行くとも思うのですけれども、鴻巣を見て、川里の本当の端っこでそれがやはりあの場所でやるということに意義があるのなら、クレアと、あとはどこになるのでしょうかね。そこら

辺から考えて、あの場所というのは本当に鴻巣の文化に必要な場所であるということで大変なお金が投下されているという意味なのですかね。私にしたら不思議です、あんな。言わせてもらえば、遠くてあれなのですけれども、どこら辺から来ているのかというのをつかんでいるものですかね。

（委員長）菅野委員、もうちょっと答弁できるような質問してあげないと答弁できないです。

（菅野）だから、あの意味をどう捉えているかと。いや、来ているというけれども、うどん食べている人も野菜買いに来ている人もみんな人に入れているわけです。これだけのお金を投下すればやれて当たり前なのです。私に言わせれば、わずかな福祉を削ってもああいう部分のお金は幾らでも出すわけです、鴻巣の市政というのは。だから、いわゆる箱物行政ですよ。箱物行政なのです。箱物行政には金を出すと。人形町にしても。そこら辺をもって……

（委員長）菅野委員、それはやっぱりこの委員会で言う質問ではないので。

（菅野）この委員会じゃないかね。

（委員長）やっぱりそれは一般質問でやったほうがいいと思います。これは大きなあれなので、担当の方でも難しい問題だと思いますので、違った質問してもらったほうがいいと思います。

（菅野）これだけのお金を出して何であの場所なのかと。どうしても川里であの場所が必要だという認識で、補助金もらってまで投資した値はある事業に取り組んでいると、そういう自信を持って答弁いただけるならいただきたい。

（環境経済部長）そもそも花と音楽の館ということで、これまちづくり交付金が創設のころから企画された、川里町で考えられた事業。やはり先ほど説明あったように交流というテーマ、それと観光資源、いろんな観光資源があると思います。その中で、やっぱりあえてそこに着目したというのは、その地域にそういった歴史のものが、培われたものがあつた、そういう風土があつた、それをやはり交流というものを通して地域、

まちおこしにしていきたい。まちづくり交付金についても、地域創造というか、地域の活性化を狙った事業ということで認識しております。そういった中で、やはり川里町でこの事業が企画されたというのはそういった地域交流、まちおこしという中でその特徴を生かしていこう、そして後世にも伝えていこうと、そういう形であったものだと思います。また、合併をするということは地域の均衡ある発展、ですから真ん中の中心市街地だけがにぎわっているだけでは、それは1つのまちになっていかない、それは合併したことによっていろいろな拠点の中でその地域がそれぞれある程度のにぎわい、そういった活性化をしていきたい、そういった拠点の具体化するものの一つの事業というふうに考えられると思います。

（菅野）では、そういうことなら、例えばあそこでお店でいろんなものを売っていたり、こちらでいろんな事業をやっていますよね。そういうのに関して、やはり川里の住民なり、それから市内のいろんな団体が参加してどういう成果になっているのかね。収入になっているとか文化の発展になっているとか、市民の福祉の向上になっているとか、そういう部門がもしつかめれば最後にお聞きしたいと思います。

（環境経済部長）具体的には課長のほうが詳しいかと思うのですがけれども、きょうお寄りになって野菜を買っていただいた、苗を買っていただいた、これ地域でつくられたものがそこでやっぱり販売できる、そういった場があってその、それは川里、この花と音楽の館、花久の里のやっぱり意義だと思うのです。それで、食事につきましてもてんぷら食材なり、小麦粉についても地域からとれたもの、そういったものをやっぱり地域でとれたもので消費していく、そういったもので消費が生まれていくということは、人がまたそこに集まってくれる、交流ができていく、そして音楽を楽しめる、そういった場所があるということはやっぱり地域にとってもよろしいかと思えます。

以上です。

（菅野）終わり。

（羽鳥）それでは、まず市町村による提案実施事業補助金が600万円出ているわけなのですが、2年前に將軍鷹狩り行列行い、今回は鴻巣御殿、

御参行列が行われるわけなのですが、観光では2回目ということなのですが、このそれぞれの事業は共通した部分と違いがあると思うのですが、それぞれ共通した部分と、また違う点をお聞きいたします。

(観光戦略課長) まず、共通した部分につきましては、いずれの事業も中山道を中心として中山道の中での鴻巣宿の位置づけを歴史的に再確認していくという部分は共通した部分になります。異なる部分につきましては、まず予算規模も大分違うということと、それとあと前回のことも踏まえて今回は予備日を設けるなどして事業についても万全を期するような体制にしたこと、それとあと本陣イベントということで、いわゆる市民にたくさん出店をしてもらうような形をこれからとっていくということが大分前回とは変わってきている部分だと思います。それとあと、今回につきましては前回ありました特定のタレントさん等は呼ばないで…

(呼ばないのの声あり)

(観光戦略課長) はい。今回の主要人物につきましては、一応公募でもって募集していくということが全体違っているところというふうに思います。

以上です。

(羽鳥) やはり一番の問題が、事業の補助金として1,200万円投下するわけなのですが、これをいかに市民に納得してもらうか、また有効に使うかということが大きな問題だと思うのですが、その点についてどのように担当課では考えているかをお聞きいたします。

(観光戦略課長) 1,200万円でございますけれども、大部分は正直な話一緒にやりますイベント会社に対する委託料に係る部分になってきます。それとあと、事業終了後のいろんな記録をつくったりですとか、そういった費用にも充てていく部分になっていくかと思えます。あと、先ほどは市民団体が中心でということをお願いしましたけれども、本陣イベントの中で市民団体による出店やら、あるいは市民パレード、音楽隊ですとか市内の小中学校を中心とした子どもたちにもその部分については還元していくことになるかというふうに思えます。

以上です。

（羽鳥）やはりこれも大変大きな税金を使うわけなので、この御参行列においていかにして市内において観光戦略においての位置づけを持つかということなのです。だから、この行列を行うことによって今後どのような形で商業、観光においていい形での影響を与えるかということをややはり危惧というか、心配しておるのですが、その点についてはどのような形で種植えをしていくかということをお聞きいたしたいと思います。

（観光戦略課長）繰り返しになりますけれども、やはり鴻巣の観光の魅力の一つとして徳川家との関連、その中でかつて家康から家光の間にかけて鴻巣近辺で行ってございました鷹狩りに関して、その宿泊所として利用していた鴻巣御殿、そういったところを大々的にPRをして、それによって歴史の中での鴻巣市の位置づけを高めるとともに、市民に対しても鴻巣市はこういうところだったのだよということで郷土愛の醸成、そういったことにつながるということを考えているところでございます。以上です。

（羽鳥）それでは、次の森林整備加速化林業再生事業の補助金がおりましたわけなのですが、これを利用して花久の里の今度3,000平米の予定地の大きな改修というか、開発というか、されるわけなのですが、きょう予定地を見てきたわけなのですが、大きな木が数本ありますよね。その木の再利用のような形は。何か残す形、または再利用する形は検討されていないのか、お聞きをいたします。

（観光戦略課長）今回の設計の中では、基本的には全て樹木については伐採をして、新たに植樹をするということでされております。以上です。

（羽鳥）ちょっと私も遠くから見ていたので、木の種類なんかわからなかったわけなのですが、なかなか立派な木が今残っているわけなのです。その再利用のような形は何かできないのでしょうかね。新たな施設の備品として、その材木を使って椅子をつくったりとか、机をつくったりとか、そのような活用ができれば本来のこの補助金の目的の趣旨に合うというふうに考えるわけなのですが、非常にちょっと自主的な志になって

しまうとは思いますが、その点はいかがでしょうかね。

（観光戦略課長）正直申し上げまして、実際その計画の中でそういったことは議論になったことはございませんでした。

（羽鳥）そうしますと、新たな施設にこの補助金が入るわけなのですが、実際県内のどのあたりの材木を利用されるのか。なかなかちょっと鴻巣市と建材のご縁というのではないと思うのですが、これにおいてはやはり川里地域のほうのひまわり保育園、これもやっぱり木のぬくもりを感じる形をつくろうということで非常に検討したところあったのですが、今回のこの施設においてはどのような建材を使うのかをお聞きいたします。

（観光戦略課長）基本的には、埼玉県のエ業の中心が飯能方面、特に西川材と言われているような材料だと思います。ですから、そちらの木を使っていくことになるかというふうに考えております。

以上です。

（羽鳥）それでは最後に、これらの施設、ちょっとお聞きしたのですが、来年度仕上がるというふうに、供用開始されるというふうに聞いておるのですが、そうしますとこの花久の里の指定管理料の増減があると思うのですが、平成27年度においては2,783万5,000円ですよね。やはり施設ができてまた新たな雇用もあると思うので、指定管理料のほうも、増減と言いましたが、ふえていくのかというふうには思っておるのですが、28年度どのような形で今検討というか、予想されているのかをお聞きいたします。

（観光戦略課長）施設が新たにオープンしますと当然それに係る人件費等もふえてまいりますので、あるいは光熱費等もふえますので、指定管理料は確実に28年度については増額になるというふうに考えています。それにつきましては、こちらでも今試算の準備をしているところで、これから28年度予算に向けてご提案させていただきたいと考えております。

以上です。

（羽鳥）以上です。

(金子) 何点か質問いたします。

初めに、市町村による提案の実施事業補助金ですけれども、先ほどのお話の中でも今回で2回目ということで、今後これについて、そもそもこれを行うようなことになった発想とか、どこからそういうふうな考えが出てこういうイベントがいいのではないかというふうな流れになったか、ちょっと教えていただきたいと思うのですけれども。

(観光戦略課長) 今回のイベントにつきましては、まず合併10周年ということで何かできるものはないかというところで、鴻巣御殿につきましてはかなり以前から江戸図屏風のものですとか、そういったところで知名度はあったかというふうに思います。前回実は実際鷹狩り行列をやっていく中であいにくの天候で不完全燃焼といった部分もありましたけれども、そういったことも踏まえて今回新たに鴻巣御殿を中心とした行列ということで企画したような次第でございます。

以上でございます。

(金子) それでは、今回2回目の行列ということですが、今後についてもこのような、結果を見なくてはわからないのですけれども、できればまた例えば20周年とかなった場合とかについてはやるような方向が企画されるような感じであるのかどうかお聞きします。

(観光戦略課長) 今のところ、そういった計画はありませんけれども、恐らく今後市制施行70周年とか、あるいは合併20周年といったときにはまた観光として何がしのイベントを企画するということは考えられることだとは思いますが。

以上でございます。

(金子) 続きまして、この日程なのですけれども、先ほどのお話の中では11月の14日、これ県民の日ということで県民の皆さんが、小学校、中学校とかお休みの生徒さんもいらっしゃるということで皆さんが集まりやすいのかなとは思いますが、この前の鴻巣鷹狩り行列については、おおとりまつりのときですか、そのときに宿場会議ということで、その一環として10月の下旬ですか、でしたよね、行われたかとは思いますが、今回11月の14日というところ、このイベントだけで盛り上げ

るということで考えるとちょっと中身的にどこまでいくのかなというのも懸念されるのですけれども、それがありまして、それと前回のとき、ほかのイベントが結構あるのです、10月は。花の何ですか、コスモスまつりとか、それに産業祭ですか、そういうふうなイベントとかもありますけれども、イベント尽くしで非常に市民の方々イベントあって、お祭りあって楽しいことは確かなのですけれども、これを成功させるためには単品でこれを11月14日に行うということ自体がちょっと、それこそこれからいろんな企画をしないと不発に終わってしまうのではないかとと思われるのですけれども、その点の準備とか打ち合わせとかはどのような流れになるのかちょっとお聞きします。

（観光戦略課長）この県民の日、11月14日につきましては、実際昨年も行いました商工会が中心になってやっております鴻巣街バル、これと一応同時開催ということで行っていくことになります。

（金子）そうしますと、昼間についてはこれで盛り上げて、夜については一杯飲んでもらうとか、街バルとかで、それをうまくタイアップさせてという、昼間もそうですけれども、そういうふうなものをこれからは企画されるということによろしいわけですね。

（観光戦略課長）勝願寺のお十夜もこの日に当たりますので、そういったことで。

（金子）それでは次に、下の森林整備加速化林業再生事業補助金についてですけれども、先ほどのお話の中でございましたけれども、市内の県産のほうの木材を使用するというので、飯能とか向こうのほうのところの材料ということがございますけれども、それを購入するところについては例えば鴻巣市内にも材木業者とかがいらっしゃるわけですね。例えばそういうところから購入されるのか、そういうところを例えば絡めていくのかどうかちょっとお聞きしたいのですけれども。

（観光戦略課長）材料の仕入れ先につきましては、落札業者との関係もありますので、実際どこから仕入れてくるのかというのは今の段階ではちょっとはっきり申し上げることはできません。

以上です。

（金子）私がちょっと質問したのは、地域の活性化ということで地元の企業を優遇する措置として一つにはいいのかなと思ったのですが、今のお話の中では入札と。できれば安く仕入れて市内の方を潤わせることが必要かと思われまますのですけれども、その点は何とか組み入れるとか、そういうふうな措置ができるのでしょうか。

（観光戦略課長）実際落札業者と市内の材木屋さんが取引があるかどうかというのがまず1点と、それとあと市内の業者が実際県産材を納入するような、そういうルートを持っているかということにもかかわってきますので、正直申し上げまして今のところちょっと不透明なところだと思います。

以上です。

（金子）続きまして、先ほど施設を見学いたしまして、花久の里の建物自体見ても雨どいとかがなく非常に美観がよろしいということで、いろんな工夫がされていらっしゃるかと思うのですが、今回鳥瞰図ですか、これを見ても、そば打ちのこの新しく建てる建物、これもソーラーとか今はやりのものがないほうが美観的にもいいのですけれども、機能的に考えると、これから環境的なものを考えるとそういう施設もあってもいいのかなと思うのですけれども、この点はいかがでしょう。

（観光戦略課長）正直申し上げまして、基本設計の時点で太陽光発電とか、そういったことまでは組み込まれておりませんでしたので、実施設計する中で実際そういうことにはならなかったというのが実情でございます。

以上です。

（金子）次に、そば体験施設ですけれども、ここにつきましてはあくまでもというよりも、体験する内容としてはそば打ち、そのほかに何かいろんなものが利用できるのでしょうか。

（観光戦略課長）そばに限らず、例えばまんじゅうですとか、あるいは洋食系のものも考えているというふうにNPOのほうから伺っております。

以上です。

(金子) その施設ですけれども、先ほどの中で、ここの中にも農産物とかの販売する施設も設けるといふことをございますけれども、これ花久の里の先ほど入ったところにも非常にいろんな大きなといふか、施設がありますけれども、それとの整合性と、それとあとできればこれは地元といふことで川里のほうの農家の方とかが中心でこういうふうなものをNPOを通じて配置といふか、販売されるのかどうかちょっとお聞きします。

(観光戦略課長) まず、今長屋門にある販売所につきましては、全て新しい建物に移転になります。あそこで販売しておりますのは、基本的には野菜につきましてはNPOの会員の方の野菜が中心になっております。ですので、おおむね川里の方が生産した野菜といふことになるかといふふうに思います。

以上です。

(金子) わかりました。

以上です。

(加藤) いろいろ話聞かせていただいたので、私から1点だけご質問したいと思っております。

森林整備加速化林業再生事業補助金の関係で、先ほど花久の里のほうに見学に行って見てまいりました。その中で、私個人としては花久の里非常に期待したいなと思っております、特に駐車場設備が比較的広いなといふことと食事もとれる、そして今回増設することによってまた見学できるものが増えてきてといふことで、外からも人が来ていただける可能性が高まるなといふふうに感じたところなのです。ただ、先ほど観光戦略課長のほうから駐車場のほうについては花まつりのときはいっぱいになったりしたのですけれどもという話がありました。できましたら、雛祭りのときであったり、ほかのイベントがあつて花火大会であったりとか、いろんな鴻巣に市民が他の市外の方から来るときにもこつてこういうのがあつてねとか言つて、食事もとれるし、こつといふ面があるから、見学して、それで1時間ぐらいそこを見てから行こうよとかといふふうになってくれればという思いもあります。も

ちろんこの地域に住んでいて鴻巣市民がリピーターとしてこういうふう
にいいところあるから、ではちょっと定期的に行こうよという形もいいか
と思いますけれども、外からもやっぱり来てくださるところを期待した
いと思っております。

そんな中で、ほかの私言いました先ほど花火大会とか雛祭りの時期とか、
そういったところでうまく人をこちらに呼ぶような何か戦略とかないか
なというのと、あれだけ駐車場スペースも充実していると例えば観光会
社なんかも含めてそこってどうですかねなんていう問い合わせもあつた
りするのかなと思ひまして、問い合わせの現状とかもしわかれば、それ
を踏まえて今後こんなふうになればいいなというのをちょっと参考にお
考えを教えてくださいと思っております。

以上です。

（観光戦略課長）今の花久の利用について、PR等についてのことだと思
いますけれども、かなり最近花久についての問い合わせが花まつりの
期間中結構多くありました。バラが見られるところはどこですかとかい
うようなことから始まって、かなり最近花久に対する認知度も高まっ
ているものと思います。特にびっくり雛祭りの期間中に関しましては、花
久の里につきましてサテライト会場ということであそこにもひな壇を設
置して、たくさんのお客様に一応行っていただいております。また、シ
ャトルバスも運行しまして、花久の里も回るような形になっております。
そういったことで、市のさまざまなイベントの中で花久の里のPRとと
もに、そういったサテライト会場という位置づけで一緒にイベントに参
加してもらおうような、そういった形をとって今運営しているところもあ
ります。

以上です。

（加藤）ちょっと先ほど言い忘れていたのですけれども、イベントの中
には最近今年度から始めたものとして、この部ではないかもしれないで
すけれども、プロ野球、武蔵ヒートベアーズなんか鴻巣のフラワース
タジアムで10試合ぐらいやっているらしいのです。そうすると石川とか
長野のほうからもいろいろお客さんが来るという、そういったものがふ

えてきているので、そういった方々に花久の里に寄っていただけるようなアナウンス、広告についてを一生懸命頑張ってくださいと本当にいいなというふうに思っております。これは質問ではないのですけれども。以上です。

(委員長) 以上で質疑を終結いたします。

これより討論を求めます。

初めに、反対討論はありますか。

(なし)

(委員長) 次に、賛成討論はありますか。

(なし)

(委員長) 討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

これより採決いたします。採決は挙手で行います。

議案第60号 平成27年度鴻巣市一般会計補正予算(第1号)のうち本委員会に付託された部分について、原案のとおり決することに賛成委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

(委員長) 挙手全員であります。

よって、議案第60号は原案のとおり可決されました。

以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

これをもちまして市民環境常任委員会を閉会いたします。

なお、会議録の調製につきましては委員長に一任願います。

ご苦労さまでございました。

(閉会 午前11時40分)

